



第43回

全国育樹祭

OKINAWA 2019

うけつごう 豊かな緑と みんなの笑顔



江藤農林水産大臣によるみどり（苗木）の贈呈



秋篠宮皇嗣同妃両殿下によるお手入れ



メインテーマアトラクション（第二章 100年先の沖縄の森林を唄う）



緑の少年団による活動発表

12月14日から15日にかけて、「うけつごう 豊かな緑と みんなの笑顔」をテーマに、第43回全国育樹祭が沖縄県平和創造の森公園及び沖縄コンベンションセンターを会場に開催されました。

森林を育て次の世代に引き継ぐ

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるため、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹運動のシンボリック行事と、皇族殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等が行われています。

親が植え子が育てる

沖縄県で開催されたお手入れ行事及び式典行事には、約4,000人が参加。14日のお手入れ行事では、天皇皇后両陛下が平成5年にお手植えされたリュウキュウマツ及びフクギを秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお手入れされました。15日の式典行事では、秋篠宮皇嗣殿下のおことばに続き、森林の育成や林業の発展、緑化の推進などに貢献した個人・団体を対象とした方々への表彰や、江藤 拓 農林水産大臣から全国の緑の少年団へのみどり（苗木）の贈呈、緑の少年団による活動発表が行われました。

オープニングアトラクションでは、琉球舞踊や、シーサー獅子舞などが披露されました。メインテーマアトラクションでは、「3つの森林の紹介」「OKINAWAの森林を想う心」の2章構成で、大会テーマである「うけつごう 豊かな緑と みんなの笑顔」を具体的なメッセージとして表現されました。最後に国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による「大会宣言」等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第44回全国育樹祭は「つなごう未来へ この木 この森 この緑」を大会テーマに令和2年10月3、4日に北海道で開催される予定です。